

課題名	末梢神経障害の神経伝導検査所見に関する検討
承認番号	2024-15 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 脳神経内科 氏名 関口 輝彦
研究期間	(西暦) 2024 年 10 月 ～ (西暦) 2029 年 9 月
研究の意義・目的	末梢神経障害のうち、特に免疫介在性に生じるギラン・バレー症候群や慢性炎症性多発神経（根）炎において、障害部位やその程度、また末梢神経を電線に例えた時、神経軸索と呼ばれる中央の導線部分そのものが障害されているのか、あるいは髄鞘と呼ばれる外側の絶縁体でできたカバーの部分が障害されているのかを非侵襲的に評価するのに神経伝導検査は極めて有用です。ギラン・バレー症候群のうち、特に日本に多い軸索型においては抗ガングリオンド抗体がその主たる病因と考えられており、ランビエ絞輪と呼ばれるカバーの継ぎ目に存在する、軸索がむき出しになった部分に結合することで、神経伝導検査における伝導ブロックを生じると考えられています。 一方で血液と末梢神経の間にはバリアも存在すると考えられており、異常に産生された自己抗体などがどのようにして末梢神経に到達して免疫反応を生じて末梢神経障害を生じるのか、またどの部位が特に障害されやすいのかについては未だ十分な知見が得られていません。 各神経を区間ごとに非侵襲的に繰り返し評価できるという神経伝導検査の利点を本研究では最大限に生かし、まずはどの神経が障害されやすいか、またどの区間に伝導ブロックなどの局所的異常を生じやすいかを疾患ごとに検討します。その結果から末梢神経障害の原疾患ごとにバリア破壊のメカニズムや、どの区間のバリアが特に脆弱であるかを明らかにすることを目指し、特に免疫介在性の末梢神経障害においてより良い治療法を確立することに繋がたいと考えます。
研究の方法 (対象期間含む)	調査の対象となるのは、2005 年 4 月 1 日から 2029 年 9 月 30 日の間に当院で診察・検査を受けた（受ける）患者さまで、臨床的ないし神経生理検査により末梢神経障害と診断された方です。調査を行う期間は、2024 年 10 月 1 日～2029 年 9 月 30 日を予定しますが、当院倫理委員会の承認を受けて延長されることがあります。具体的には、病気の経過（いつ、どこから病気の症状が始まり、どう広がり進んできたか）など問診であなたから伺った情報や診察の所見、神経伝導検査など神経生理検査、血液・髄液検査所見の情報を使わせて頂きます。これらのデータをデータベース化した上で、最終診断に基づいて遡り、どの神経のどの区間に特に検査異常を生じやすいのかを集積し、検査・診断の効率化や病気のメカニズムを深く調べる一助にすることを目指します。 ※この研究の成果は、個人情報保護した形で学会や論文で発表されることがあります。 ※「ヘルシンキ宣言」や「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従い倫理委員会の承認の下で実施されます。

試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	収集したデータは本研究の目的のみで使用します。患者さまの個人情報を守ることとは「個人情報の保護に関する法律」に定められています。患者氏名などの個人を特定できる情報は、この研究固有の記号などに置き換えますので、患者さまのプライバシーは、一切公表されることはありません。
利用又は提供する 試料・情報の項目	病気の経過（いつ、どこから病気の症状が始まり、どう広がり進んできたか）など問診であなたから伺った情報や診察の所見、神経伝導検査など神経生理検査、抗ガングリオシド抗体など血液・髄液検査の情報を用います。
試料・情報を 利用する者の範囲	当院脳神経内科 部長 大久保 卓哉・集中治療部 医長 米澤 直樹
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	脳神経内科 副部長 関口 輝彦
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 脳神経内科 氏名 関口 輝彦 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) 4213 (関口) / FAX:045-628-6101